診療科別主要手術別患者数等

診療科	Kコード	名称	患者数	平均術前日数	平均術後日数	転院率	平均年齢
外科	K634	腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術（両側）	30	0.3	2.4	0.0%	63.7
外科	K672-2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	18	1.9	4.9	0.0%	61.2
外科	K719-3	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	16	6.8	30.9	0.0%	71.6
外科	K6335	鼠径ヘルニア手術	12	0.0	2.7	0.0%	70.1
外科	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	-	-	-	-	-
外科	K4632	甲状腺悪性腫瘍手術（全摘及び亜全摘）	-	-	-	-	-
緩和ケア科	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	-	-	-	-	-
眼科	K2821	水晶体再建術（眼内レンズを挿入）（その他）	332	1.0	1.0	0.0%	74.4
眼科	K2801	硝子体茎顕微鏡下離断術（網膜付着組織を含む）	21	1.0	1.0	0.0%	70.0
眼科	K2802	硝子体茎顕微鏡下離断術（その他）	-	-	-	-	-
眼科	K284	硝子体置換術	-	-	-	-	-
血液透析科	K616-4	経皮的シャント拡張術・血栓除去術	-	-	-	-	-
血液透析科	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径２ｃｍ未満）	-	-	-	-	-
血液透析科	K610-3	内シャント設置術	-	-	-	-	-
血液透析科	K6147	血管移植術、バイパス移植術（その他の動脈）	-	-	-	-	-
整形外科	K0461	骨折観血的手術（肩甲骨）	28	7.7	68.8	3.6%	79.1
整形外科	K0811	人工骨頭挿入術（肩）	19	11.6	73.5	5.3%	77.8
整形外科	K0462	骨折観血的手術（前腕）	-	-	-	-	-
整形外科	K0732	関節内骨折観血的手術（胸鎖）	-	-	-	-	-
整形外科	K0463	骨折観血的手術（鎖骨）	-	-	-	-	-
内科	K7211	内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術（長径２ｃｍ未満）	153	0.1	1.2	0.0%	65.3
内科	K5493	経皮的冠動脈ステント留置術（その他）	96	3.1	12.0	0.0%	68.8
内科	K610-3	内シャント設置術	75	4.1	19.9	5.3%	72.8
内科	K688	内視鏡的胆道ステント留置術	64	7.4	8.2	1.6%	81.3
内科	K5951	経皮的カテーテル心筋焼灼術（心房中隔穿刺、心外膜アプローチ）	38	4.5	4.1	0.0%	69.6

【定義】
◆診療科別、手術の術式ごとに平均術前日数、平均術後日数等を集計しています。
◆一入院中に複数の手術を行っていても、主たる手術のみをカウントしています。
◆退院診療科を基準に集計しているため、この集計での診療科が、必ずしも手術実施診療科とは限りません。
◆輸血や創傷処理、皮膚切開術、非観血的整復術などの軽微な手術は集計対象外としています。
◆術前日数は、入院日から手術日まで（手術日当日は含まない）の日数、術後日数は手術日（手術日当日は含まない）から退院日までの日数を指します。
◆患者数が10名未満の場合は、プライバシー保護のため掲載しておりません。

【解説】
◆外科では、腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術の実施患者が30名と最多です。平均術前日数は0.3日と、入院した日に実施する場合が多くなっています。

◆眼科では、白内障に対して行われる水晶体再建術（眼内レンズを挿入）が332名と最も多く、術前日数・術後日数ともに概ね1日です。

◆整形外科では、骨折観血的手術の実施患者が最も多く、28名です。

◆内科では、内視鏡的大腸ポリープ・粘膜切除術の実施患者が153名で最も多いです。
平均術前日数は0.1日、平均術後日数は1.2日で、平均在院日数は概ね2日前後となっています。

年齢階級別退院患者数

年齢区分	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～79	80～89	90～
患者数	-	15	42	55	197	237	658	1,201	954	332

【定義】
◆集計期間内に退院した患者さんを年齢階級別（10歳刻み）に集計したものです。
◆年齢は入院日時点を基準にしています。

【解説】
高齢化の進展に伴い、年齢階級別の退院患者は、60歳代以上が全体の85.1%（3,145名）を占めています。
当院は地域における、高齢者向け医療に貢献しています。

初発の５大癌のUICC病期分類別並びに再発患者数

ICD10	病名	初発					再発	病期分類基準	版数
		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	不明			
C16	胃癌	-	-	-	18	-	-	1	7
C18,C19,C20	大腸癌	-	11	-	78	15	111	1	7
C50	乳癌	-	-	-	-	-	-	1	7
C34	肺癌	-	-	-	-	-	-	1	7
C22	肝癌	-	-	-	-	-	25	1	7

【定義】
◆集計期間内に退院した5大がんの患者を、UICCのTNMから示される病期分類ごとに集計しています。
◆延べ患者数を数えているため、集計期間中に繰り返し入退院を行った場合は、入院回数分をカウントしてます。
◆最も医療資源を投入した病名が疑い病名の患者は、除外して集計しています。
◆患者数が10名未満の場合は、プライバシー保護のため、－（ハイフン）で表示しています。本ページのその他の指標も同様の処理をしています。

【解説】
初発癌については、大腸癌の患者数が最も多く、次いで胃癌の患者が多いです。
再発については、大腸癌が他の癌と比べて患者数が多いですが、これは化学療法などの治療のために繰り返し入院されている方の影響によるものです。

（参考）		Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	不明	再発
C18	結腸癌	3	8	6	66	14	66
C19	S状結腸癌						
C20	直腸癌	1	2		12	1	45

成人市中肺炎の重症度別患者数等

重症度	患者数	平均在院日数	平均年齢
軽症	-	-	-
中等症	115	17.8	81.6
重症	29	23.9	83.8
超重症	-	-	-
不明	-	-	-

【定義】
◆入院契機病名および最も医療資源を投入した病名のICD10コードが、J13～J18の患者を対象に、重症度ごとの患者数等を集計しています。
◆ICD10コードが、J13～J18とは、以下の病名を指します。
J13：肺炎レンサ球菌による肺炎、J14：インフルエンザ菌による肺炎、J15：細菌性肺炎、
J16：その他の感染病原体による肺炎、J17：他に分類される肺炎、J18：病原体不詳の肺炎
◆「成人市中肺炎」における「成人」とは、20歳以上を指します。
◆「成人市中肺炎」における「市中肺炎」とは、普段の生活の中で罹患した肺炎を指します。
◆重症度は市中肺炎のガイドラインによる重症度分類システム（A-DROP）により分類しています。5点満点で1項目に該当すれば1点、2項目に該当すれば2点。
1．男性70歳以上、女性75歳以上　2．BUN 21mg以上または脱水あり　3．酸素飽和度90%以下　4．意識障害あり　5．血圧90mmHg以下

【解説】
重症度の考え方は、重症度分類システム（A-DROP）の5項目が1つも該当しなければ軽症、1項目または2項目が該当すれば中等症、3項目該当が重症、4項目または5項目該当は超重症という学会の診療ガイドラインに則しています。
当院で最も患者数が多いグループは中等症グループで、平均在院日数は17.8日、平均年齢は81.6歳です。

脳梗塞のICD10別患者数等

ICD10	傷病名	発症日から	患者数	平均在院日数	平均年齢	転院率
I63	脳梗塞	3日以内	37	38.0	78.5	8.1%
		その他	22	127.3	81.5	0.0%

【定義】
◆脳梗塞の患者数や平均在院日数等を集計しています。

【解説】
発症から3日以内の急性期の患者は37名で、その平均在院日数は38日、転院率は8.1%となっています。
転院とは、身体機能の回復のために他の医療機関で集中的なリハビリ等を行う場合や、退院後に当院への通院が困難で、他の医療機関での入院を継続されることを指します。当院では、回復リハビリテーション病棟や、地域包括ケア病棟があるため、転院ではなく転棟をさせることもあります。

その他

DPC	傷病名	入院契機	症例数	発生率
130100	播種性血管内凝固症候群	同一	-	-
		異なる	-	-
180010	敗血症	同一	-	-
		異なる	11	0.36%
180035	その他の真菌感染症	同一	-	-
		異なる	-	-
180040	手術・処置等の合併症	同一	-	-
		異なる	29	0.95%

【定義】
◆この指標は、医療の質の改善に資する指標として、播種性血管内凝固症候群、敗血症、その他の真菌症、処置・手術等の合併症について、患者数および発生率を集計しています。
◆「入院契機が同一」とは、入院時傷病名と退院時傷病名が同じで一入院を通してその治療に専念し、診療報酬算定請求も同じ病名でなされた場合を指します。「異なる」は、入院中の病態の変化により、入院時傷病名と、最も医療資源を投入した傷病名が異なる場合を指します。

【解説】
◆敗血症は特定の細菌が血液中に入り、細菌感染が全身性に炎症を起こし重篤な疾患の一つです。「同一」「異なる」いずれも1%未満の発生率になっています。
◆手術・処置等の合併症とは、人工透析のカテーテルの不具合や人工股関節の緩みなど、初回治療後の長年の経過により引き起こされているものを指します。